

連句実作会

十一月二十一日

百韻奉納式の後、桃園集会所をお借りし、奉納に参加していただいた連句の達人達をお迎えし、裾野連句会や市民の皆さんと共に連句実作会を行いました。

普段と違う連衆のユニークなひらめきに触発されながら楽しく会話も弾む午後となりました。

心通わせながら、友情の和を広めることのできる連句の効能を改めて実感しました。



胡蝶「四季桜」の巻

四季桜生誕祝い冬を咲く
 息白くして奉納の吟
 創作の板付けきびし舞いみせて
 認定書を著し文化活動
 渡り鳥群をなしたる月あかり
 岬の馬の肥えし色つや
 秋祭太鼓係に管係
 喫茶店にわたり話類を染め
 柔道五段男勲章
 流れ付くハンブル文字のある木切れ
 市民交り国境を越え
 組み立てて恐竜の骨まだ足りぬ
 ジェラ紀白亜紀地層くつきり
 網の目に予報の進む気象庁
 コロナ失業夫(つま)に焼酎
 夏の月今夜いいねの誘い待ち
 大白波の鳥に打ち寄せ
 海を見るよりも風見る吾が漁師
 満票翔平金よりも上
 宇宙船キャブテン務む日本武士
 勉学も力に淡雪を待し
 春告鳥に心明るく

捌

小林 小水
上野 静

静 森
司 大雄

司大雄 司大雄 司大雄 司大雄 司大雄 司大雄 司大雄 司大雄 司大雄 司大雄

二十韻「不二の雪」の巻

不二の雪そこに夕日の暮れ残り
 寒月背負い通う塾の子
 霜の花未だへたどる踏みふみて
 土手にあふれる振り鉄のむれ
 父遺すライカカメラを質に入れ
 夫婦喧嘩を冷ます長旅
 確かめるほくろの数と深情け
 記者会見は暴露続出
 霊送りよく乗りこなせ茄子の牛
 案山子の胸に大麻解禁
 筒ぬけて糸瓜の水を取りそこね
 玉虫ひそむ祖母の古箏笛
 相性の足の小指と椅子の角
 となりの国のいwash密漁
 月出でて胡弓いよいよ泣きそむる
 携帯のビデオ機能を知り尽くし
 紅葉かつ散る寺の境内
 渡鹿野島へ蝶はひらひら
 花万葉茶箱弁当うちひらき
 うなりひびかす手作りの風

捌

近藤

近藤 近藤

近藤 近藤 近藤 近藤 近藤 近藤 近藤 近藤 近藤 近藤

二十韻「小春日や」の巻

小春日や古道の仏みな真顔
 あちらこちらに舞うは綿虫
 放課後の児らの歓声響き居て
 椅子に凭れて吸る珈琲
 湖に架かる吊橋月揺れる
 燃える紅葉に君と肩寄せ
 ハロウィンコスプレで待つ交差点
 世間を沸かす知事の発言
 M V 大谷君の二刀流
 ワイルド気質きわむ頂き
 将門の首塚に住む青蛇蟻
 麦酒に浮かぶ月を飲みほす
 縁に座し過去をあれこれ回想し
 君に恋する初めこの接吻
 白寿にて恋多き人旅立ちぬ
 犬は尻尾を振って近づく
 まあだだよ座敷童のかくれんぼ
 富士の裾野に聴くは鶯
 ウォーキング一歩延ばせば花吹雪
 清き流れに若鮎の鬚

捌

宮澤 佐野
賀勝 又

次男 仙由
次男 仙由

次男 仙由 次男 仙由 次男 仙由 次男 仙由 次男 仙由

二十韻「宗祇の夢」の巻

雪富士や宗祇の夢はなほつつく
 冬晴のもと集ふ人々
 威勢よくノズルはミスト吹きあげて
 流木に掛け水夫は一服
 大寺の林に佇れば月の影
 初紅葉めで君の髪愛で
 菊の宴酔うたあなたは帰らざる
 軒のてるてる坊主さびし気
 鳩の糞ぼとりと肩にだうしやう
 ガソリン高に頭痛ませ
 王様はベルシヤの姫に貢いでる
 座敷童があかんべえして
 暗がりに誘ひ出さむと時は今
 抱きつく彼に抱かれてをり
 口紅を月の露台に塗り直す
 鯨かば焼き岡持に提げ
 絵の中に心を求め飽きもせず
 母と斉唱早春の歌
 ダムサイト花のトンネル園児ゆく
 田打のあとの楽し甜酒(たむさげ)

捌

本屋

良子

良子 本屋 良子 本屋 良子 本屋 良子 本屋 良子 本屋